

施設計画

1. アプローチ動線
(1) メインアリーナレベルの設定

総合スポーツセンターの建設予定地には、北側前面道路と多目的広場に約4mの高低差があります。この高低差を踏まえると、メインアリーナレベルを多目的広場レベルに設定するか、北側前面道路レベルに設定するかによって、全面道路および芝生広場から見た、総合スポーツセンターの高さが大きく違ってきます。また、当該敷地は宗像市景観計画の中で、景観形成一般区域に指定されており、景観法に基づき届出が必要な景観に配慮すべき地域になっていることを踏まえると、メインアリーナレベルは全面道路レベルに設定し、周辺景観への影響を低減することが望ましいと考えます。

景観イメージ図			
メインアリーナレベルを多目的広場レベルとした場合			
	前面道路からの景観イメージ（遠景）	前面道路からの景観イメージ（近景）	芝生広場からの景観イメージ
	隣接する宗像ユリックスより建物高さが高くなる。 芝生広場から見ると屋根が山々の稜線にかかる。		
メインアリーナレベルを前面道路レベルとした場合			
	前面道路からの景観イメージ（遠景）	前面道路からの景観イメージ（近景）	芝生広場からの景観イメージ
	隣接する宗像ユリックスより建物高さが低くなる。 芝生広場から見ると屋根が山々の稜線より低くなる。		

景観イメージ比較表

(2) アプローチ動線の整理

前述のメインアリーナレベルの設定より、メインアリーナレベルを全面道路レベルとして、アプローチ動線の整理を行います。総合スポーツセンターへの主なアプローチの方法として、徒歩と自動車と考えられます。

徒歩によるアプローチは、バス停および周辺施設からの動線を確保する必要があります。現在、宗像ユリックスとアクアドーム、その他周辺施設との往来やバス停からのアクセスには、主に、多目的広場レベルの多目的広場西側並木通り（写真①）および歩道橋（写真②）が利用されています。そこで、総合スポーツセンターにおいても、並木通りを中心として周辺施設との連携を図り、大規模大会やイベント時でも混雑しないスムーズな歩行者のアプローチ動線を確保するために、歩行者のアプローチ動線は、並木通りおよび歩道橋を利用した、多目的広場西側からのアプローチとします。

自動車によるアプローチは、大会時の選手の大型バスや器具搬入用の大型車両、緊急車両が建物に寄り付ける動線を確保する必要があります。敷地の高低差や道路状況、多目的広場東側に新たに設ける予定の駐車場との位置関係を勘案して、総合スポーツセンターに隣接した北側および東側に車寄せを併設した駐車場を設け、全面道路から直接もしくは東側道路からのアプローチ動線を確保します。これにより、各種車両が建物に寄り付ける動線を確保します。総合スポーツセンターに隣接した北側および東側の駐車場には車いす利用者用駐車場や職員用駐車場の設置の検討も行います。

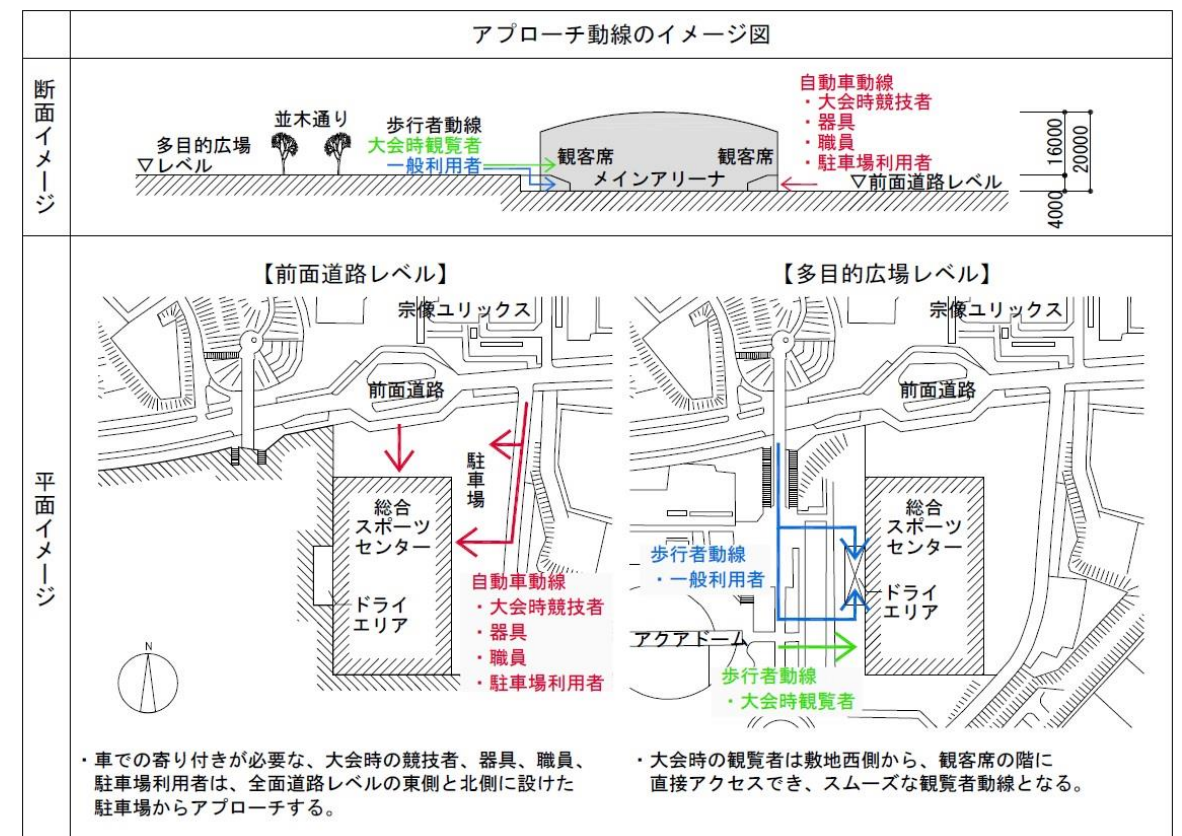
また、多目的広場東側に新たに設ける予定の駐車場からの徒歩によるアプローチ動線も確保します。それから、徒歩、自動車の他に自転車によるアクセスも想定されます。自転車用駐輪場の設置位置については、敷地の高低差や自動車動線との交錯のない配置、景観等に配慮し、より詳細な計画の段階において検討します。



写真①：並木通り



写真②：歩道橋



アプローチ動線の整理